地域連携センター

年 次 報 告 書

2024（令和6）年度

敬愛大学・敬愛短期大学
地域連携センター

（目次）

はじめに　1

1. 沿革　2

2. 歴代管理職　3

3. 組織（2024年度）　3

4. 地域連携センターの位置づけ　4

5. 2024年度実績　6

5-1　生涯学習講座　6
5-2　ボランティア活動・地域連携活動　8
5-3　高大連携　12
5-4　幼保系ボランティアのコーディネート　14
5-5　メディア等でのとりあげ　14
5-6　年次事業計画の達成度

6. 次年度の展望　16

（資料）新聞等掲載記事　18

（資料）事業報告一覧　21

はじめに

「地域連携センター」の発足からまる8年が経過しました。2024年度は、佐倉キャンパスにあった短期大学が稲毛キャンパスに移転したこともあり、地域との協働事業が加速した一年となりました。このような中で当センターは、本学の地域連携・社会貢献の総合窓口として、「地域の伴走者」としての最前線に立つ努力を、地道に進めることができたと考えています。

2024年度を振り返りますと、産学官連携及び地域・社会貢献に関する取り組みでは、本学を含む「ちば産学官連携プラットフォーム」の活動の充実が挙げられます。特にプラットフォーム事業での協働により、文部科学省私立大学等改革総合支援事業タイプ3（地域社会への貢献：プラットフォーム型）に7年連続で選定していただけたことは、客観的に私たちのとりくみと近隣大学・千葉市との連携が進んでいることを証明したと言えるでしょう。

生涯学習事業では、大学・短大の新教育棟竣工を受け、JR稲毛駅前で2016年4月に設置した生涯学習センターを2024年11月末で閉館しました。12月からは稲毛キャンパスで講座を継続しています。JR稲毛駅前という利便性がなくなったものの、受講生数の減少は心配していたほどではないように思われます。今後は新規顧客の獲得が課題となります。

ボランティア活動については、千葉市や稲毛の街で学生が活躍する場が戻り、学生たちが正課外で活動する場が増えました。新たな縁が増え、「学生たちが街に学ぶ」機会が増えていくことは、センターの喜びでもあります。また短期大学の担う幼保系ボランティアのコーディネートや参加集約といった新たな業務にも、適切な対応ができたと思います。

佐倉キャンパスで学んできた敬愛短期大学の学生が稲毛に移ってきたことにより、より多くの敬愛大学・敬愛短期大学の学生・教職員が、「地域に学ぶ」「地域で学ぶ」ことができるよう、これまで繋いできたご縁をこれからも最大限に発揮してまいります。

引き続き、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

2025年5月

敬愛大学・敬愛短期大学　地域連携センター
センター長　藤森 孝幸

1. 沿革

（生涯学習事業）

2005年9月	生涯学習講座開講
2016年4月	「敬愛大学生涯学習センター」をJR稲毛駅前に開設
2017年4月	地域連携センターの新設に伴い、所管部署を大学運営室から移管。
2018年4月	生涯学習センターを移転し、教室を拡張。
2023年4月	生涯学習センターを再度移転し、一教室に縮小。
2024年4月	敬愛大学八日市場高等学校（学校法人長戸路学園）通信制課程稲毛キャンパスを生涯学習センターに併設（2024年9月末で廃止）。
2024年11月	生涯学習センターを閉館し、以後の事業を稲毛キャンパスで継続。

（ボランティア活動、地域連携事業）

2011年9月	東日本大震災を契機に、教員主導による「宮城ボランティア」が開始。
2015年3月	千葉市との間で「地域経済活性化に関する連携協定」が締結される。
2015年5月	学生支援室内に、ボランティアセンターが設置される。
2016年4月	「宮城ボランティア」の主管が、ボランティアセンターに移管。
2017年4月	地域連携センターの新設に伴い、所管部署を学生支援室から移管。
2021年8月	東京オリンピック・パラリンピックで学生・教職員が多数、ボランティア（フィールド・キャスト、シティ・キャスト）として参加。

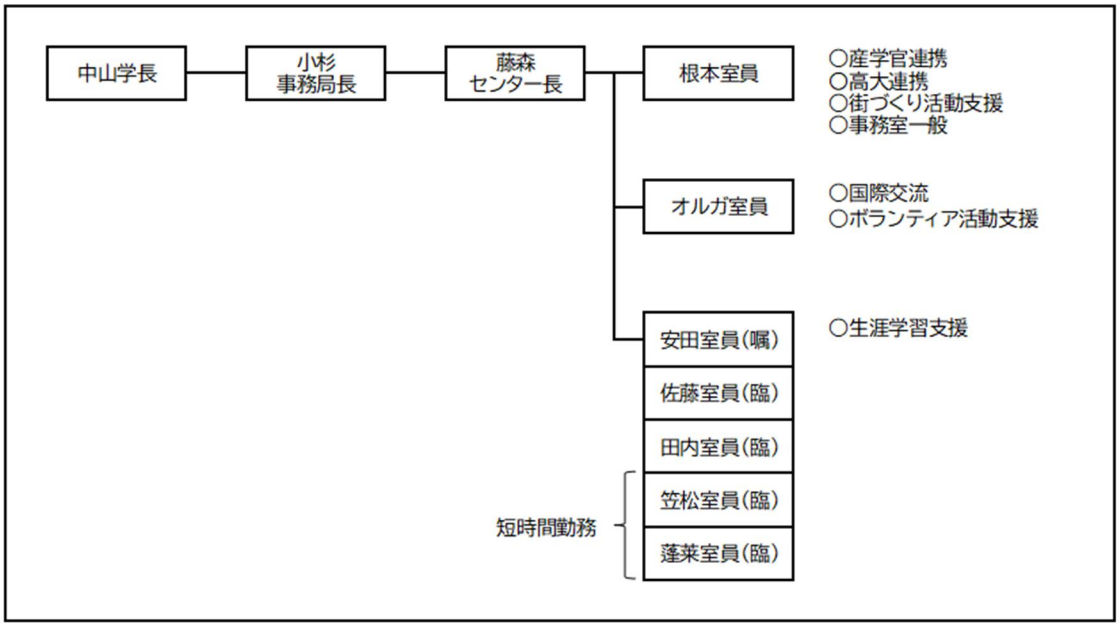
（地域連携センター事業）

2017年4月	地域連携センターが、学長直属の部署として新設される。
2018年8月	「ちば産学官連携プラットフォーム」設立に伴い、副会長校を拝命。 同プラットフォームでは、生涯学習連携事業部会の幹事校を拝命。
2019年2月	文部科学省私立大学等総合改革支援事業（タイプ5） 初選定
2021年12月	「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」に参画。
2022年３月	大学基準協会の認証評価（第3期）で、「適合」の評価をいただく。 あわせて「長所・特色」の一つとして「学生・教員・地域経済と相互連携した地域の特性に根差した地域貢献活動」がとりあげられる。
2024年4月	地域連携センターが大学事務局内の部署に変更される。 敬愛短期大学のキャンパス統合に伴い事務組織規程が改定され、「敬愛大学・敬愛短期大学 地域連携センター」となる。
2025年2月	文部科学省私立大学等総合改革支援事業（タイプ3:プラットフォーム型）に7年連続で選定される。

2. 歴代管理職

2017年4月1日	地域連携センターの新設に伴い、 小阪新造（法人運営室員）がセンター長に、藤森孝幸（学生支援室主幹）が事務室長に就任。
2019年4月1日	小阪センター長がアドミッションセンター長に異動となり、中山幸夫副学長（現：大学・短大学長）がセンター長を兼任。
2021年4月1日	藤森孝幸がセンター長に就任（事務室長兼務）。
2023年4月1日	藤森孝幸がセンター長に再任（事務室長兼務）。

3. 組織（2024年度）



センター長	藤森孝幸（地域連携センター事務室長を兼務）
室員（嘱託職員）	安田勝也、根本純代、パンコーヴァ・オルガ
室員（臨時職員）	佐藤真理子、田内治美、笠松宏、蓬莱美奈子 ※蓬莱室員は 4/30 付、田内室員・笠松室員は 11/30 付、佐藤室員は 3/31 付で退職。

4. 地域連携センターの位置づけ

①地域連携センター規程（2017年4月1日施行）

◆第2条（目的）

地域連携センターは、敬愛大学・敬愛短期大学の地域連携、地域貢献の総合窓口として、地域社会、行政、企業、学校等との連携を深め、地域の発展に寄与するとともに、本学の教育研究機能の充実を図ることを目的とする。

◆第3条（業務）

地域連携センターは、前条の目的を達成するために次の業務を行う。

（1）産学官連携及び地域・社会貢献に関する事項

（2）生涯学習・公開講座に関する事項

（3）地域行事・ボランティア活動等の情報統括に関する事項

（4）地域連携に関わる大学内の連絡調整および窓口業務に関する事項

②2024年度部門別事業計画

敬愛大学ビジョン2030に基づく「中期計画'24」および2024年度事業計画

中期計画'24		2024年度事業計画
目 標	計 画	事業計画
VI. 地域連携・社会貢献		
1. 学生と地域との連携、大学間連携、産学官連携を推進し、地域連携センターが学園の地域連携活動の総合窓口としての役割を果たす。	1-1 ボランティア活動に加え、サービスラーニングの充実に注力し、学生が地域に学ぶ正課外活動の実践を目指す。	○引き続き「千葉（市）、稲毛」の特性に根ざした地域貢献事業を推進し、正課・正課外を問わず、全学的に学生・教員・地域社会との相互連携を推進する。 ○特に大学生だけでなく、短大生や学園高校生も交えて、「地域で学ぶ、地域と学ぶ、地域を学ぶ」ことに必要な支援を行い、正課外活動の充実に寄与する。 ○地域の課題解決に資する事業は、年間15回を目標とする。
	1-2 「ちば産学官連携プラットフォーム」のスキームを活用し、参画大学・短期大学間はもとより、千葉市、市内産業界とも連携した取組を推進、他大学を含む産学官連携の充実を図る。	○ちば産学官連携プラットフォーム事業で主担当を務める生涯学習等を通じ、副会長校として事業全体の活性化に寄与し、改革総合支援事業（タイプ3）の7年連続の選定を目指す。 ○「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」や「千葉県福祉系高校人材育成コンソーシアム（新設）」等を通じて、千葉県や千葉市、稲毛区をはじめとする産官学連携の継続・強化に取り組む。
	1-3 短大の稲毛キャンパス移転を機に、大学だけではなく学園全体の地域連携活動の窓口としての役割を認識し、幅広い社会貢献活動を展開する。	短期大学の社会貢献・地域連携事業の実績を、適切に融合・定着させる。 特に大学・短期大学双方で連携協定を締結する地方自治体や教育連携協定を締結する高校との連携状況を的確に把握し、定期的な意見交換と相互事業の充実に努める。
2. 生涯学習講座やリカレント教育の充実により、生涯学習センターを生涯学習・リカレント教育の地域拠点として確立する。	2-1 「老後の学び」から「生涯にわたって学び続ける生き方」にシフトした教育コンテンツを提供するため、リカレント教育や履修証明プログラム等のメニュー開発を検討する。	○語学講座や資格取得講座、英語教師授業力ブラッシュアップセミナー等を通じたリカレント教育の充実の他、大学・短期大学の正課を活用した教養講座の充実を図り、生涯学習事業を通じた「市民のウェルビーイングの達成」に取り組む。 ○生涯学習センター（稲毛駅前）の前期末での閉館により、後期からは稲毛キャンパスでの講座運営の充実を図る。提供講座数を年間160講座、受講生数を年間延べ1000名を目標とする。

③2024年度組織目標

令和6年度は、「千葉敬愛学園ビジョン2030」に示されている「地域の伴走者」としての学内外からの期待を的確に捉え、与えられた環境の下、最善の取り組みをめざす。

1．稲毛の街および千葉市に根ざした地域貢献事業を推進し、正課・正課外を問わず、全学的な学生・教員・地域経済との相互連携の循環を推進する。例えば、

・ちば産学官連携プラットフォーム事業
（文部科学省私立大学等改革総合支援事業への継続選定を含む）
・ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム事業
・パラスポーツを通じた共生社会の実現に資する事業
・千葉県、千葉市との協働事業
（千葉市の「千葉開府900年」にむけた取り組み等を含む）
・学生及び教職員のボランティア活動

2．系列高校や教育連携高校での社会貢献の実践を、積極的に推進する。

3．生涯学習事業の持続可能性を意識した運営や講座設計に取り組み、近年話題になっている「ウェルビーイング」を意識した講座の企画を推進する。あわせて収支管理の適切化に注力する。

4．所管業務に遺漏なく業務品質の向上を図るため、室員一人ひとりが健康に留意しながら自己啓発に努める。

5-1. 2024年度実績(生涯学習講座)

① コロナ禍を経ての対応

コロナ禍で一度離れた受講者が戻ることはなく、2024年9月末を以て生涯学習センターを閉館する方針を、2024年1月の大学運営会議で承認を受けた。

その後、学校法人長戸路学園から、生徒募集で苦慮している敬愛大学八日市場高等学校(通信制課程)のサテライト教室として、時間を区切って生涯学習センターを使用させてほしいとの要望があり、閉館の方針を撤回すると共に、家主の了承を得て、特例として時間を区切った転貸を行うこととなり、この間は生涯学習センターとしての活用を継続することとなった(2024年3月の大学運営会議で承認)。

しかしながら、長戸路学園から2024年9月末でサテライト教室を閉じる旨の申し出があったことから、2024年7月の大学運営会議の承認を経て、2024年11月末日での生涯学習センターを閉館することとした。この間頻繁に運営方針の変更を余儀なくされ、講師や受講生、職員には大きな負担をかけることとなったが、12月以降は新教育棟(大学1号館)が稼働した稲毛キャンパスで講座を継続するとともに、原状回復工事を経て2024年12月末日までに約10年にわたる稲毛駅前での生涯学習センターの運営を終了した。

② 講座数、受講者数(受託運営講座を除く)、収支

(単位:講座)

講座数		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
前期	提供	113	168	97	75
	開講	42	134	64	69
	開講率	37.2%	79.8%	66.0%	92.0%
後期	提供	121	196	53	80
	開講	89	132	39	65
	開講率	73.6%	67.3%	73.6%	81.3%
年間	提供	234	364	150	155
	開講	131	266	103	134
	開講率	56.0%	73.1%	68.7%	86.5%

(単位:人)

受講者数	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
前期	572	749	565	539
後期	694	714	349	445
年間	1,266	1,463	914	984

(単位:千円)

運営収支	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
収入	10,725	18,608	13,659	14,867
支出	20,065	27,877	16,780	14,085
収支	▲9,340	▲9,269	▲3,121	782

提供講座は155講座、開講した講座は134講座(開講率86.5%)となり、開講率は前年度比の17.8%増となった。経常費予算の削減及び講座の精選により、開講率に改善が見られた。

受講生数はのべ984名(前年度比7.7%増)であった。

生涯学習事業の収入は、年間13,940千円を見込んでいたが、最終的には14,867千円(927千円増収)となった(この収入には、長戸路学園から納入された転貸による施設使用料(1,650千円)が含まれている)。一方支出では、生涯学習センターの閉館による固定費の軽減や設置講座の吟味等の努力を行った結果、生涯学習事業全体で14,085千円の支出(782千円の黒字)となり、生涯学習センターを設置以来続いていた収支不均衡状態が解消された。

③ 生涯学習講座の周知定着

一般社団法人千葉市産業振興財団では、会員福利厚生サービスとして本学の生涯学習講座を受講する会員に助成金を出すなど、活用を後押ししていただいている。

また千葉市生涯現役センターによる「シニアのための生涯学習フェスタ」（於：千葉市民会館）では、2024年度もプレゼンテーションの場をいただき、直接来場したシニア層に講座の魅力を伝える機会もいただくことができた。

さらに千葉市生涯学習センター（指定管理者：一般社団法人千葉市教育振興財団）から、「利用者懇談会委員」「市民自主企画選考委員」への就任依頼を受け、より深く相互の情報共有などを推進している。

④ ちば産学官連携プラットフォーム「ちば学リレー講座」

2018年8月に発足した「ちば産学官連携プラットフォーム」には、千葉市域の私立大学・短期大学12校が参画している（植草学園短期大学の閉校に伴い、2024年度末で11校に減少）。本学はこのプラットフォームで副会長校および生涯学習連携事業部会の幹事校を務めており、同プラットフォーム事業のひとつである「ちば学リレー講座」の会場提供および運営業務を担った。

2024年度は全12回の講座が提供され、うち10回を本学（生涯学習センター、稲毛キャンパス）で開催した。受講者数は、オンデマンド受講者も含め、のべ249名となった。無料講座でもあり当センターの収入にはならないものの、結果として本学が生涯学習事業に熱心に取り組んでいることを市民の皆様に知っていただく機会にもなっている。

⑤ 運営スタッフの勤務体制

2024年度のスタッフは、前年度から変更なく全員を継続雇用した。どの職員も誠実な勤務姿勢で業務に邁進していただき、受講生や講師からの信頼も厚かったが、生涯学習センターの運営方針が二転三転したことや、生涯学習センターを11月末で閉館したこと等から、雇用していた臨時職員4名は年度末までに段階的に雇用を終了した。

なお2025年4月からの運営に備えて、臨時職員1名を公募し、4月1日付の採用を決定した。

5-2. 2024年度実績（ボランティア活動、地域連携活動）

① 概要

本学の学生はボランティア活動への関心が高く、当センターが主催・紹介する活動のみならず、大学内外の諸団体における自主的な活動に、多くの学生が参加している。またボランティア活動だけでなく、地域の社会貢献活動にも熱心に参加する姿が見受けられ、それらの経験を日々の正課活動、正課外活動にも活かしているのは、高く評価したい。

2024年度は、「稲毛せんげん通りまつり」や「稲毛あかり祭・夜灯」といった地域での大型イベントのほか、千葉県・千葉市が推進する「パラスポーツを通じた共生社会の実現」の取り組みへの協働事業が増えた。また「ちば産学官連携プラットフォーム」による大学連携協働事業や「ちばアクアラインマラソン」、千葉市による小学生向け模擬選挙等への協力、高等学校の学習指導助言といった活動の定着もみられたが、「千葉県夢チャレンジ体験スクール」は、県の事業見直しにより2024年度末で事業終了となった。

②主な事例

◆パラスポーツを通じた共生社会の実現への協力

千葉市が推進している「パラスポーツを通じた共生社会の実現」の取組に、全面的に協力している。特に「パラスポーツフェスタちば2024」（主催：千葉県・千葉市ほか）や、区内3大学が共催する「第6回いなげボッチャカップ」（主催：稲毛区）をはじめとするボッチャ等の行事には、多くの学生が運営ボランティアや選手として参加してくれた。特にボッチャは「稲毛ゆかりのスポーツ」（欧州でのボッチャ大会を目にした日本の視察団が持ち帰ったボッチャの大会が、初めて国内で開催されたのが稲毛区内にある千葉県スポーツセンターだったと言われている）と言われていることもあり、年度中にYohaSアリーナや穴川コミュニティセンター、イオン稲毛店、高洲スポーツセンターでも大会や体験行事が催され、全面的に協力した。

◆東京2020大会のレガシー創出活動

東京パラリンピックで競技のボランティアに参加した4大学（本学の他、植草学園大学、帝京平成大学、千葉大学）の学生・教職員が創作したパラスポーツ「ソフトパラフェンシング」を、学生からの求めに応じて、大学祭「敬愛フェスティバル」で紹介した。

◆ちばアクアラインマラソン2024

2年毎に開催される「ちばアクアラインマラソン2024」で、本学は新設された「運営サポートスポンサー」に名を連ね、ハーフマラソンのゴール地点（牛込海岸）でゴールしたランナーに完走メダルをお渡しする役目を担当した。ハーフマラソンを完走されたランナー約6,500人に記念メダルをお渡ししながら激励する姿は、多くのランナーや大会運営関係者から高い評価をいただいた。

◆千葉市模擬選挙事業への協力

千葉市選挙管理委員会事務局が市内各小学校で実施している模擬選挙事業には、本学の他、千葉市弁護士会や市内数大学が協力している。本学は2024年度も3校（幸町小学校、幕張南小学校および園生小学校）で事業に協力した。

本学学生は堂々とした態度で、市長候補者として自らの施策や夢を熱く語り、参加してくれた小学生からの質問攻めにも対応した。

なお本事業の様子は、『よりよい未来をつくる主権者になろう！ ～ （3）ウェルビーイングな未来を目指して』（監修：西野偉彦、発行：小峰書店）にも掲載された。

◆その他の他大学との連携事業

（1）ちば産学官連携プラットフォーム事業

▸千葉市こども若者市役所（CCFC）

千葉市こども支援課の呼びかけで始まった事業で、高校生と大学生が集まり、千葉市からの課題解決に取り組んできた。本学からも学生有志が参加した。

▸ちば仕事研究塾

オンラインによる地元企業3社による業界研究会を開催した。本学学生もキャリアセンターを通じた周知に応じて参加した。

▸共同FD・SD研修会

全7回のうち1回の研修で、本学教職員が講師を務めた。

・データサイエンス・AI教育の充実（高橋和子特任教授）

▸フードバンクちばと連携した学生への食糧支援

ちば産学官連携プラットフォームが2021年度に実施した学生アンケートの結果、独居学生や留学生を中心に生活に不安を感じる学生もいることから、千葉市（子ども企画課）やフードバンクちばの協力を得て、学生への食糧支援がおおむね隔

月で行われている。2024年度は計3回、白米やレトルト・缶詰食品、調味料、飲料などの配布を実施した。

▸合同ボランティア活動

2024年6月に開催された「YohaS」（共催：一般社団法人千葉公園YohaS振興会、千葉市）には、本学を通じて参画校の学生にも参加を呼びかけ、千葉市域の大学全体で協力する形で盛り上げに関わった（敬愛大学から34名、敬愛短大から4名が参加した）。

（2）ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム

2024年度末の参加団体は、11企業・団体、5校（敬愛大学、千葉大学、千葉経済大学、神田外語大学、高校1校）、千葉市である。

小学生向けのワークショップ「西千葉子ども起業塾」「ちばE-tubeプロジェクト」等の運営には、本学学生も参加した。また敬愛学園高校の生徒が、高校生ビジネスプログラム「千葉公園起業チャレンジ2024」に参加した。

◆稲毛区、稲毛区内町内自治会活動への参加

・稲毛区民まつり　本学は敬愛フェスティバルとの同日開催として協力、藤森センター長がアドバイザーとして実行委員会に参加。10月20日に5年ぶりに開催された。

・区内大型イベントの参加　稲毛せんげん通りまつり（7月14・15日）には大学・短大の学生29名が公募で参加した。本学は気味ステーションの運営にも協力した。

稲毛あかり祭「夜灯」（11月23・24日）には、大学・短大の公募学生7名の他、大学祭実行委員会の学生たちが多数参加した。

・町内自治会、商店街、コミュニティセンター事業への参加

穴川商栄会感謝祭（5月4日）には大学・短大の学生11名、穴川町会盆踊り（7月20日）には同12名の学生が参加した。

◆震災学習スタディツアー2024

2020年度まで「宮城ボランティア」と呼んでいた宮城県でのフィールドワークは、2021年度の中止を経て「震災学習スタディツアー」として継続している。通算13回目となる2024年度は、『支縁～いつまでも忘れず、語り継ぐ』をテーマに、2月11日～13日の2泊3日で開催、学生30名が参加した。

東日本大震災から13年11ヶ月の月命日を訪れた宮城で迎え、名取市のほか女川町、石巻市、福島県双葉町等で時間をかけて現地踏査を実施し、学びを深めた。
（別途報告書を公表： https://www.u-keiai.ac.jp/media/Report2024.pdf ）

◆千葉県夢チャレンジ体験スクール 「キャリア教育しごと体験スクール」

学生スタッフとして本学学生10名が、中高生57名の指導に熱心にあたってくれた。特に夏季休業中に4日間連続（企業等での仕事体験2日間および前後1日ずつの研修）での学生スタッフの活動はめざましいものがあり、講師や千葉県教委、参加中高生からの評価は、極めて高かった。

なお本学は2011年度から本事業に関わってきたが、千葉県教育委員会の事業見直しにより、2024年度で終了となった。

◆第7回英語教師授業力ブラッシュアップセミナー

本事業は、小中高校の現役英語教員を対象としたリカレント講座として、本学英語教育開発センターの協力を得て開催している。2024年度は、11月30日に「英語教育改革完成年度（のはず）の指導と評価の振り返り」をテーマに開催した。

講師には、渡邉浩章先生（成田市立八生小学校教諭）、橋本晋作先生（渋谷区立松濤中学校主幹教諭）、富永幸（文部科学省 初等中等教育局教育課程課 外国語教育推進室 教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官）および本学英語教育開発センターの向後秀明先生をお招きした。受講者数は26名、加えて本学学生が36名受講した。

小学校から高校までの全校種で本格的に始まった新学習指導要領の着実な推進に向け、各校種において、どのように授業をデザインし、具体的にどのような言語活動を展開していく必要があるか、指導と一体化した学習評価（パフォーマンス評価を含む）はどうあるべきかなどを中心に、指導・評価の両面で活用できる実践的な情報を提供させていただき、好評を博した。

◆文部科学省私立大学等改革総合支援事業（タイプ3：プラットフォーム型）

2018年8月に発足した「ちば産学官連携プラットフォーム」では、本学は主に「生涯学習」「ボランティア」「防災講話」等の事業に関わった。本学としての主な取り組みは以下の通り。

① 生涯学習事業

「ちば学リレー講座」全12回のうち、本学からは清水一巳教授（現代こども学科）

が『ちばの「子どもの遊び場づくり」』、畑中千晶教授（教育学部）が『ちばにゆかりの近世文学』をテーマでそれぞれ講師をお務めいただいた。

また千葉市内公民館等の求めに応じて、参画校教員の講師マッチングを実施した。

② 社会人の学び直し支援プログラム（ICTスキル講座）

本学からは大塚慎太郎准教授が「AI・データサイエンスへのいざない」をテーマに講師をお務めいただき、2022年4月からオンデマンド配信されている。

③ 戦略経営・事業創発マネジメントスクール

本学からは彌島康朗教授が「セカンドキャリア～社会課題×ビジネス～」をテーマに講師をお務めいただき、2024年8月からオンデマンド配信されている。

④ 共同研究

千葉市民1000人にウェブアンケートを実施し、「千葉市の縮図を作る」ことでプラットフォームが今後取り組むべき事業を検討する基礎とするデータ収集を、2年続けて実施した。本学からは矢口和宏教授と藤森センター長が研究員として参加した。

また「千葉市における外国ルーツの学生の生活意識および教育問題に関する研究」（代表者：青砥清一先生（神田外語大学））には、大学から土弘教授、土田教授、長谷川准教授が、短大から佐久間アドミッションオフィサーと藤森センター長が研究員として参加した。

⑤ 共同の開発科目

淑徳大学が設置したちば産学官連携プラットフォーム共同開発科目「ボランティア・市民活動論B」（担当教員：山本功先生、竹村有花先生）のため、本学から藤森センター長が1コマを担当した。

⑥ 防災講話

千葉市花見川区長からちば産学官連携プラットフォーム（地域支援連携事業部会）への依頼で、「花見川区町内自治会連絡協議会研修会」（12月21日開催）の講師を、藤森センター長が担当。講話の他、「災害エスノグラフィー」という新しい手法で、参加者のグループディスカッションを行った。

⑦ 文部科学省私立大学等総合改革支援事業（タイプ3：プラットフォーム型）

植草学園大・短大、神田外語大、敬愛大、淑徳大、千葉敬愛短大、千葉経済大・短大、千葉明徳短大、帝京平成大の11校が共同で申請に取り組み、7年連続で選定された。これにより獲得した補助金額は、特別補助のみで各1,000万円（大学・短大で計2,000万円）、経常費補助加算額は629万円（大学・短大計）であった。

5-3. 2024年度実績（高大連携）

◆市立稲毛高校との連携事業

2019年度に協定締結した市立稲毛高校では、11月25日の1年生「総合的探求学習の時間」で行われた「千葉市創生プロジェクト（千葉市をより良くするための方策）」に、教育学部の市川洋子教授、経済学部の金珍淑准教授と吉田直広講師、および藤森センター

長を派遣。他大学の教員と共に各クラスに分かれ、フィールドワークの成果発表に指導・講評を行った。市川洋子教授には、12月3日の学年全体発表会（市長プレゼン参加チーム選考会）の審査員もお願いした。

◆敬愛学園高校との連携事業

敬愛学園高校では、「総合的探究の時間」の教科主任を配置し、1～3年生の全学年で本学との連携を意識した授業が展開されている。

1年生	課題解決型グループ学習 「Inage Image」	「総合的探究の時間」の授業で、企業・行政機関・NPO・学校等から提示されたミッションに対し、解決策を5名程度のグループ毎に生徒に提案させる取組。敬愛大学、敬愛短期大学、㈱敬愛サービスが参加。
1年生	出前授業 「データサイエンスへのいざない」	「総合的探究の時間」の授業への出前授業。AI・データサイエンス教育センターの吉田直広先生を派遣。文理選択にも資する取組。
2年生	出前授業（理系クラス）	「理数探究基礎」の授業への出前授業。AI・データサイエンス教育センターの田中未央先生、木村宏人先生を各1回派遣。
3年生	「卒業探究」における 大学・短大教員による助言活動	生徒一人ひとりが執筆する卒業論文の内容を深めるため、希望する生徒が大学・短大の先生方から専門的な助言を受ける取組。希望生徒46名中26名に対し、大学・短大の教員が個別指導を実施。

◆その他高等学校との連携事業

2022年2月に勃発したロシアによるウクライナ侵攻により、本学卒業生のウクライナ人、パンコーヴァ・オルガ室員がご家族と来日避難したことを受け、2022年4月から地域連携センターの嘱託職員として勤務してきた。

今年度は、学内ではゼミを中心に各教室を積極的に訪ね、また学外では県立土気高校、県立佐原白楊高校、県立茂原高校で講演活動を行い、誠実に業務を遂行した。

なおオルガ室員のご子息が中学校に進学したことから、教頭先生からの相談を受け、副専攻「日本語教師養成課程」の受講生計4名を学習支援ボランティアとして同中学校に派

遣した。同中学校にはご子息の他、日本語能力に大きな差がある外国ルーツの生徒が在籍しているため、本学学生による支援は大変役に立っているとのことである。

5-4. 2024年度実績(幼保系ボランティアのコーディネート)

新規事業として、短大生への幼保系ボランティアのコーディネートを開始した。短大1年生は後期に保育所・幼稚園・施設実習が続くことから、短大では予め幼児と接する準備として学生が幼児とふれあうボランティア活動を奨励している。活動先は学生が探すことにしているが、地域連携センターでも情報を収集して情報を提供すると共に、保険対応のため、事前にGoogleフォームで届出をさせた。学生から受けつけた届出件数は、以下の通りである。

1	幼稚園、保育所、認定こども園	252	319
2	子育て支援施設	12	
3	放課後デイ、老人・障害者施設、児童養護施設、アフタースクール	30	
4	野外活動(プレーパーク、キャンプ等)	12	
5	地域活動(こども食堂、交通安全、祭礼等)	13	

5-5. 2024 年度実績(メディア等でのとりあげ)

本学の地域連携の取り組みは学外からも注目されており、以下のテレビ、新聞で放送・掲載された。

① 「盲導犬への理解深める 敬愛大生ら声かけなど学ぶ」(読売新聞) 4月29日

② 「ウクライナ 料理で思いはせ」(朝日新聞) 8月3日

③ 「高校生たちがウクライナから避難の女性と料理作りを通じて交流」(NHK千葉) 1月15日
https://www3.nhk.or.jp/lnews/chiba/20250115/1080024924.html

④ 「津波で息子亡くした両親 大学生に命の大切さ訴える」(NHK仙台) 2月13日
https://www3.nhk.or.jp/tohoku-news/20250213/6000030243.htm

⑤ 「敬愛大生、東北被災者と重ねる交流 記憶のバトン次世代へ」(千葉日報) 3月11日
https://www.chibanippo.co.jp/news/local/1411470

⑥ 「被災地支援、学生を導く」(読売新聞) 3月21日

5-6. 2023年度実績(年次事業計画の達成度)

「中期計画'24」に基づく2024年度事業計画およびその達成状況を、年度末にとりまとめた。2024年度は現行中期計画の最終年度にあたり、単年度の達成度は全項目でBとなったが、5年間にわたる「中期計画'24」の達成度では、生涯学習・リカレント教育に関する達成度がCに留まった。

2024年度事業計画			中計'24の達成度
事業計画	達成状況	達成度	
○引き続き「千葉（市）、稲毛」の特性に根ざした地域貢献事業を推進し、正課・正課外を問わず、全学的に学生・教員・地域社会との相互連携を推進する。 ○特に大学生だけでなく、短大生や学園高校生も交えて、「地域で学ぶ、地域と学ぶ、地域を学ぶ」ことに必要な支援を行い、正課外活動の充実に寄与する。 ○地域の課題解決に資する事業は、年間15回を目標とする。	○「学生が地域に学ぶ正課外活動」を実現するため、稲毛区役所や地元の祭事実行委員会、町内自治会等との連絡・情報共有を密にした。特に稲毛区役所との協働では、年1回だった連絡調整会議を年2回に増やした。 ○短大の稲毛移転を受け、従来大学生にしか紹介していなかった地域活動に短大生も参加することができるようになった。 ○学長・副学長・地域連携センター長による地域活動に関する報告会を、年2回実施した。 ○地域の課題解決に資する事業は、日本語教育支援や地域活性化事業への協力など、年間で13回となった。	B	B
○ちば産学官連携プラットフォーム事業で主担当を務める生涯学習等を通じ、副会長校として事業全体の活性化に寄与し、改革総合支援事業（タイプ３）の７年連続の選定を目指す。 ○「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」や「千葉県福祉系高校人材育成コンソーシアム（新設）」等を通じて、千葉県や千葉市、稲毛区をはじめとする産官学連携の継続・強化に取り組む。	○「ちば産学官連携プラットフォーム」、「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」での各事業は堅調に推進されており、改革総合支援事業の選定を目指して事業の裏付けを進めことができた。 ○千葉市とは「千葉市・大学連絡会議」「同幹事会」、稲毛区とは「区内3大学との連絡調整会議」を通じて市や区の重点課題を把握すると共に、本学との連携協働に努めた。	B	A
短期大学の社会貢献・地域連携事業の実績を、適切に融合・定着させる。 特に大学・短期大学双方で連携協定を締結する地方自治体や教育連携協定を締結する高校との連携状況を的確に把握し、定期的な意見交換と相互事業の充実に努める。	○大学・短期大学双方で連携協定を締結する自治体等との意見交換の場を設けた。千葉市とは「千葉市・大学連絡会議」が7月に実施され、勝浦市とは7月に締結後初めて意見交換の場を設けた。また佐倉市とは10月に「佐倉市と協定締結大学との連絡会議」が実施された。 市区町村や教育連携校との意見交換は、引き続き訪問活動も含めて、積極的に実施を推進する。	B	A
○語学講座や資格取得講座、英語教師授業力ブラッシュアップセミナー等を通じたリカレント教育の充実の他、大学・短期大学の正課を活用した教養講座の充実を図り、生涯学習事業を通じた「市民のウェルビーイングの達成」に取り組む。 ○生涯学習センター（稲毛駅前）の前期末での閉館により、後期からは稲毛キャンパスでの講座運営の充実を図る。提供講座数を年間160講座、受講生数を年間延べ1000名を目標とする。	○生涯学習センター講座及びブラッシュアップセミナーを合わせて155講座（うち正課を活用した教養講座は10講座）を開設、受講者数は950名となった。 ○生涯学習センターを11月末で閉館し、12月からは稲毛キャンパスでの講座を継続した。	B	C

6. 次年度の展望

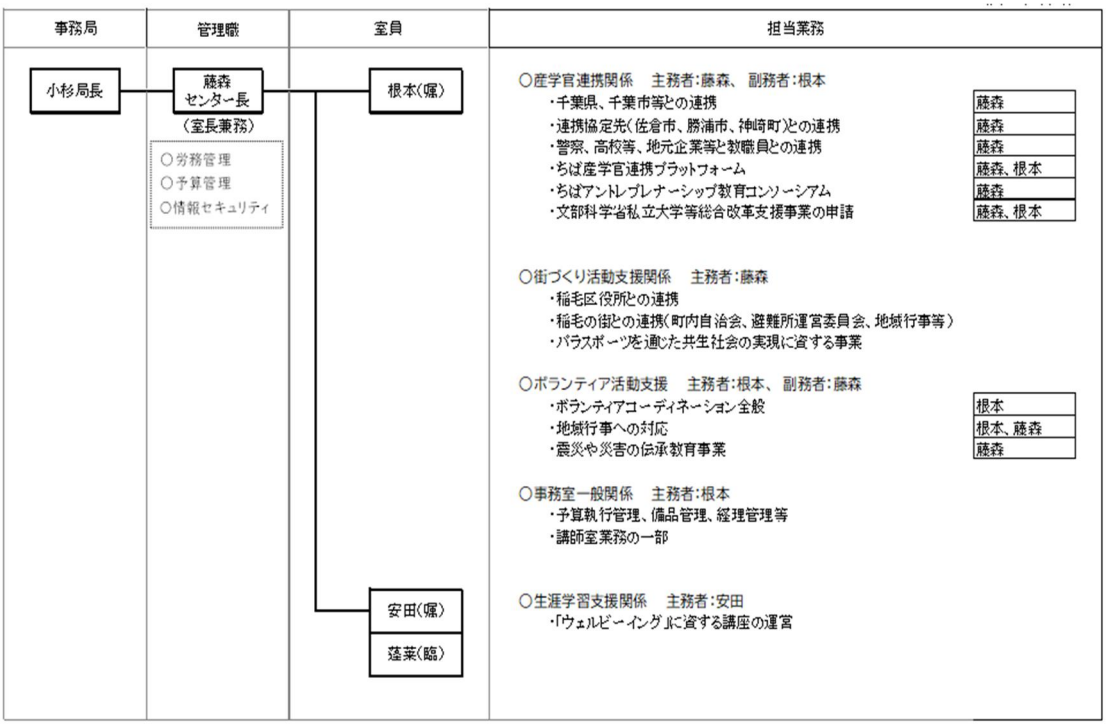
2025年度は、地域連携センターの組織目標および職責表を、以下の通り定めた。

① 組織目標

令和6年度は、「千葉敬愛学園ビジョン2030」に示されている「地域の伴走者」としての学内外からの期待を的確に捉え、与えられた環境の下、最善の取り組みをめざす。

1. 稲毛の街および千葉市に根ざした地域貢献事業を引き続き推進し、正課・正課外を問わず、全学的に学生・教員・地域との相互連携の循環を推進する。
   特に　・ちば産学官連携プラットフォーム事業
   ・ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム事業
   ・パラスポーツを通じた共生社会の実現に資する事業
   ・千葉県、千葉市および稲毛の街との協働事業
2. 系列高校や教育連携高校との高大連携を、積極的に推進する。
   特に　・短大における保育基礎コース（4校）との関係充実
   ・千葉敬愛高校、敬愛学園高校との関係充実
3. 市民の「ウェルビーイング」充実に資するため、生涯学習講座の充実を推進する。
4. 所管業務に遺漏なく業務品質の向上を図るため、室員一人ひとりが健康に留意しながら自己啓発に努める。

② 職責表



※4月1日付でオルガ室員が学生支援室に異動、蓬莱室員が復職した。

また2025年度からスタートした新中期計画（中期計画2029）に基づく2025年度の事業計画は、以下の通りである。

05 地域連携・社会貢献
大学・短大の持つ資源を活用し、国や人種、性別などのボーダーを超えた様々な人との協働、産学官の連携を推進し、高い実務能力を備えた地域社会の中核となる人材を育成する。大学・短大と地域の連携により、地域の活性化・雇用の創出に繋がっていくように、地域の課題解決に貢献できる「地域に必要とされる教育拠点」となることを目指して、地域連携による人材の育成や地域連携の拠点づくりに取り組む。

【敬愛大学】

中期計画2029	2025年度事業計画
Ⅰ．地域連携による人材育成	
1．本学の学生が地方公共団体、産業界、他大学等との地域における多様な学習機会を正課内外に拡大・進展させることで、地域連携を推進する能力を備えた人材を育成する。	1－1:「千葉（県、市）、稲毛」の官民との関係を通じた地域連携・社会貢献の取組に積極的に寄与し、正課・正課外を問わず学生・教職員と地域社会との相互連携を推進する。
	1－2:「ちば産学官連携プラットフォーム」「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」「ふくしコンソーシアムちば」等の産学官連携組織の事業活性化に寄与し、学生・教職員の地域連携推進の意識を醸成する。
	（1－3～1－6（学部別計画）は掲載省略）
Ⅱ．地域連携の拠点づくり	
1．大学、短大、高校が同一キャンパス内に存在する強みを生かし、地域との交流拠点を想定した組織の機能強化を図る。	1－1:敬愛学園高校の「総合的な探究の時間」の充実に必要な調整・協力を行うとともに、敬愛大学・敬愛短期大学双方の事業連携を推進する。
2．地域連携推進による学外関係者との交流を図る。	2－1:連携協定を締結する市町村や高等学校との情報交換に努め、本学とのよりよい関係の構築・充実を図る。
	2－2:生涯学習講座の充実や、教職課程や英語教育開発センターと連携した講座を開設し、社会人のウェルビーイングの充実に努める。

【敬愛短期大学】

中期計画2029	2025年度事業計画
Ⅰ．地域連携による人材育成	
1．本学の学生が地方公共団体、産業界、他大学等との地域における多様な学習機会を正課内外に拡大・進展させることで、地域連携を推進する能力を備えた人材を育成する。	（1－1～1－4（学科内計画）は掲載省略）
Ⅱ．地域連携の拠点づくり	
1．大学、短大、高校が同一キャンパス内に存在する強みを生かし、地域との交流拠点を想定した組織の機能強化を図る。	1－1:敬愛学園高校の授業「総合的な探究の時間」（1年次）において、絵本等保育に関する事項に興味関心を持った生徒に対し、地域の保育施設での遊び体験等の支援を行う。
2．地域連携推進による学外関係者との交流を図る。	2－1:地域連携センターとの連携や「ちば産学官連携プラットフォーム」への参画による学外関係者との交流を継続する。
	（2－2～2－4（学科内計画）は掲載省略）

2025年度はこれらの事業計画を達成すべく、これまでの事業を本年報で総括するとともに、学内の他部署や他大学・短期大学、関係機関と連携して、より深みのある地域との連携、社会への貢献の充実を図り、「地域の伴走者」としての確たる実績を積み重ねていきたい。また敬愛短期大学の取組の一部（主として総合子ども学研究所が担当してきた高大連携事業）は、地域連携センターが引き継いだため、引き続き短大の千葉市内でのプレゼンスを高められるよう努力していきたい。

主催事業としては、「震災学習スタディツアー」は短大生の日頃の学びが現地で発揮できるような内容を含められるようにバージョンアップを予定しているほか、「英語教師授業力ブラッシュアップセミナー」に続く現役小中高教師向けのリカレント講座も、充実を図りたいと考えている。またちば産学官連携プラットフォームでは、2025～26年度に会長校を担うことが予定されていることから、対応すべき業務は全体としてかなり増えることが予想される。連携先とのコミュニケーション充実に努め、適切に対応を進めたいと考えている。

多国間の戦闘や金融政策の変化等により物価上昇が止まらず、日々学生や地域の生活は不安に満ちあふれている。学生・教職員そして地域住民全体の「ウェルビーイング（well-being）」の達成に寄与できるよう努めたい。

以上

2024年度の大学生/短大生のボランティア

地域連携センターを介さない活動は掲載しておりません。

No.	活動名称	会場	協力団体	時期	参加数			備考
					大学生	短大生	学生計	
1	外国ルーツ中学生のための学習支援ボランティア	千葉市立轟町中学校	千葉市教育委員会	通年	5	0	**5**	
2	春のワンコインボッチャ大会	YohaSアリーナ	ボッチャクラブ3388	4/13	8	0	**8**	
3	春の盲導犬もっと知ってキャンペーン	そごう千葉店	日本盲導犬協会、そごう千葉店	4/28	6	0	**6**	
4	第5回穴川商栄会感謝祭	穴川町会集会所	穴川商栄会	5/4	11	0	**11**	
5	第7回ボッチャ綱取り合戦	穴川コミュニティセンター	穴川コミュニティセンター、学生団体おりがみ	5/18	8	1	**9**	
6	YohaS2024	千葉公園	千葉公園YohaS振興会	6/6-6/7	34	4	**38**	
7	外国ルーツの学生調査検討ミーティング	神田外語大学	ちば産学官連携プラットフォーム	6/8	2	0	**2**	
8	令和6年度大賀ハスまつり	千葉公園	大賀ハスまつり実行委員会	6/15-6/23	1	0	**1**	
9	パラスポーツフェスタちば2024	千葉ポートアリーナ	千葉県、千葉市、千葉市スポーツ協会他	6/19	12	2	**14**	
10	ちしろだい七夕まつり / BMX WAKABA CUP	千城台コミュニティセンター	千城台コミュニティセンター	7/6	2	0	**2**	荒天中止
11	稲毛せんげん通りまつり	京成稲毛駅周辺	稲毛せんげん通りまつり実行委員会	7/14-7/16	22	7	**29**	
12	穴川町会納涼盆踊り	穴川町会集会所	穴川町会	7/20	6	6	**12**	
13	千葉県夢チャレンジ体験スクール	敬愛大学ほか	千葉県教育委員会	8/7-8/10	10	0	**10**	
14	印旛沼ダンボールイカダCUP	佐倉ふるさと広場	印旛沼ダンボールイカダCUP大会事務局、佐倉市	8/18	5	0	**5**	
15	第1回ボッチャ体験会	イオン稲毛店	稲毛区役所、イオン稲毛店	9/7	1	0	**1**	
16	模擬市長選挙	幸町小学校	千葉市(選挙管理委員会事務局)	9/20	4	0	**4**	
17	附属幼稚園「秋季大運動会」 ※短大生は別カウント	敬愛短大附属幼稚園	敬愛短期大学附属幼稚園	9/28	6	0	**6**	
18	設立20周年ユニセフのつどい(ボッチャによる交流会)	ホテルグリーンタワー幕張	千葉県ユニセフ協会	9/29	1	0	**1**	
19	千葉市小学校体育大会ボランティア	-	千葉市教育委員会	10/31	2	0	**2**	
20	ちば湊大漁まつり	千葉ポートパーク	千葉市(観光MICE企画課)	11/2	5	0	**5**	荒天中止
21	ちばアクアラインマラソン2024	木更津市牛込漁港	千葉県	11/10	11	0	**11**	
22	模擬市長選挙	幕張南小学校	千葉市(選挙管理委員会事務局)	11/11	5	0	**5**	
23	第15回稲毛あかり祭「夜灯」	京成稲毛駅周辺	稲毛あかり祭「夜灯」実行委員会	11/23-11/24	3	4	**7**	
24	千葉市スポーツ・レクリエーション祭(ボッチャの部)	高洲スポーツセンター	千葉市(スポーツ振興課)	11/24	3	1	**4**	
25	小学校移動教室　引率補助	千葉市少年自然の家	千葉市立高洲第三小学校	11/27-11/29	1	0	**1**	
26	第2回ボッチャ体験会	イオン稲毛店	稲毛区役所、イオン稲毛店	12/7	1	2	**3**	
27	模擬市長選挙	園生小学校	千葉市(選挙管理委員会事務局)	12/19	6	0	**6**	
28	市民バレエ衣装合わせ	四街道総合公園体育館	四街道 市民のためのバレエ実行委員会	12/22	0	1	**1**	
29	チャリティーサンタ	チャリティーサンタ千葉支部	チャリティーサンタ千葉支部	12/24	0	1	**1**	
30	千葉市子どもルーム(学童保育)　冬期補助員	市内学童保育	千葉市社会福祉協議会	12/24-1/6	3	0	**3**	
31	外国ルーツの学生調査・インタビュー	神田外語大学	ちば産学官連携プラットフォーム	11月-1月	4	0	**4**	
32	ボッチャ講習・体験会	YohaSアリーナ	千葉県ボッチャ協会	1/26	5	0	**5**	
33	ボランティアでつながる体験交流会	敬愛大学・短期大学	千葉県(ちばボランティアナビ)	2/11	1	0	**1**	
34	震災学習スタディツアー2024	宮城県名取市ほか	閖上の記憶、健太いのちの教室ほか	2/11-2/13	30	0	**30**	
35	みらいくinフナテラス	船橋港親水公園	NPO法人コハレLABO	2/23	4	0	**4**	
36	第6回いなげボッチャカップ	穴川コミュニティセンター	稲毛区役所、区内三大学共催	2/16	7	0	**7**	
37	こども夢の商店街	ビビット南船橋	NPO法人ユメ・フルサト	2/23-2/24	3	0	**3**	
					233	29	**262**	

【短大生限定】幼保系ボランティア活動

1	幼稚園、保育所、認定こども園での活動	敬愛短期大学附属幼稚園、さくら敬愛保育園ほか	通年	–	252	**252**	
2	子育て支援施設での活動	千葉市子育て支援館(きぼーる)、蘇我リラックス館ほか		–	12	**12**	
3	放課後デイ、老人・障害者施設、児童養護施設、アフタースクール	佐倉市さくらんぼ園、アフタースクールセンターむぎ畑ほか		–	30	**30**	
4	野外活動(プレーパーク、キャンプ等)	北軽こども自立キャンプ、プレーパークほか		–	12	**12**	
5	地域活動(こども食堂、交通安全、祭礼等)	こども食堂、公民館事業、地域祭礼ほか		–	13	**13**	
					319	**319**	

敬愛大学・敬愛短期大学 地域連携センター

年次報告書 2024年度（令和6年度）

2025年 5月 1日 発行

編集・発行 敬愛大学・敬愛短期大学 地域連携センター
〒263-8588 千葉市稲毛区穴川1-5-21
TEL 043-251-6364（直通）
FAX 043-284-2261（直通）
URL http://www.u-keiai.ac.jp/research/renkei_center/
MAIL crc@u-keiai.ac.jp

UD FONT 本冊子には、見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。